

日本鐵鋼協會記事

◎第五回通常總會記事（承前）

大正九年三月二十日午後二時開會

○開會の辭

會長 今泉嘉一郎君

それでは是から第五回通常總會を開きます。過去の一年間、即ち昨年三月初めから今年の二月末日までに亘ります一年間に於きまして我が日本の製鐵事業が戦後の結果と致しまして非常なる打撃を受けたことは皆さんの御承知の通りでございます、戦争中に於きまして成立しましたる所の製鐵所は其の全數の大多數でございますが、それを合算いたしました今日では二百八十餘箇所の製鐵所と云ふものが日本に出来たのでございます、其内稍々設備を整へまして政府の製鐵業獎勵法の保護を受ける資格のある工場と云ふものは四十五箇所を算したのでございます、是等の工場は多くは基礎が未だ確立いたしませぬ間に此打撃を被りましたので、或ものは其損失に堪へないで事業を大に縮少し、或ものは殆んど中止した姿でございます、曾て戦争前に於きまして日本の需要額の四分の一乃至三分の一を供給することが出来るだけに止まつた日本の製鐵事業は此戦争中に完成いたしましたる所の設備に依つて考へて見まするとき

は大正八年の末に於きまして日本の需要總額の二分の一以上を供給する力が出る譯であつたのでございます、尙ほ今後數年を経過するに於きましては必ずや日本の需要總額を假令一時なりとも殆んど全部供給し得る丈の力が出る譯であつたのでございませう、然るに此講和の結果と致しまして非常なる打撃を被りましたことは誠に我が製鐵事業の爲に遺憾なる次第であります、茲に於てか朝野識者の間に於きまして何とかして是が救済策のみならず將來の根本方針を定めなければならぬと云ふ議論が出まして、政府に於きましても昨年下半年に於て之を以て財政經濟調査會の問題と致すことになりました、私共の如きも其末席を汚すことになつたのでございます。所で世間一般の議論を今茲に御紹介申し上げますと云ふと、此目的を達するが爲にはどうも二タ筋途の方法があるであらう、其一筋の方法はと申しますと、政府と致しましては何等か之に保護を加へる所の方法を立てなければならぬ、もう一筋は當業者としても何等か茲に自衛の方法を立てなければならぬ、斯う云ふ二つの方法であるやうでございます、其政府としての保護方法はどうかと申しますと、其保護の論者の趣意と致しましては從來製鐵業の國家に必要であると云ふことは皆朝野識者の知る所であるが、從來のやり方と云ふものは徒らに調査の枝葉に拘泥し没頭して居つて、更に根本方針に接觸して居らぬ、それで曾ては戦争前に於ても製鐵業獎

勵法と云ふものが出来は出来たが、是れとても何等徹底的方法ではない、毫も根本問題に觸れて居らぬ、斯う云ふことではいかぬ、彼の歐米各國何れもさうであるが、殊に亞米利加の遣り方はどうであるか、百年以前には一ヶ年の生産額僅に二千四百噸しかなくかつたのが今日ではそれの一萬倍以上殆んど二萬倍の生産額で、僅に百年後の今日に至つて即ち千九百十八年に於ける統計を見ると、銑鐵の生産額が四千萬噸、インゴットの生産額が四千四百萬噸、それから鋼材の生産額が三千二百萬噸と云ふ盛況になつたのである、斯の如き偉大なる進歩は何に原因するかと云へば申すまでもなく、亞米利加は國が大で原料に富んで居ると云ふ大なる天恵を有つて居る、併しながら其以外に於ても亞米利加と云ふ國は人爲の努力と云ふことの殊に敬服すべきものがあるから斯うなつて來て居るのである、其人の努力と云ふ中にも米國式一般の特性として極めて旺盛なる企業心並に極めて大膽なる科學應用の方法を以て理想的の設備を整へて仕事をすると云ふやり方に於て多數製造、廉價製造と云ふことの極めて理想の方法を執つてやつて居るのであるが、夫は暫く別として茲に政府爲政者として一番に見なければならぬことは其保護のやり方である、曾て米國製鐵事業が尙ほ幼稚であつた際に最も激しく英吉利の製鐵事業から壓迫を受けたのである、千八百十二年の如きは遂に自覺した米國は英國に向て戦争を惹起して迄も自國の鐵の

輸入税を引上げて、さうして之に對抗したのである。其後更に引續いて製鐵事業保護に努めました爲め鐵の最大需要者たる南部の農業聯邦の不平となつて北部との間に一大紛争を生じ、千八百三十年の如きは米國合衆聯盟の分裂を見んとする迄になりましたが危く其難を免れました、併し政策としては依然として變ることなく斷えず製鐵の關稅保護政策を執つた、或はモーリルの法案となり、マツキンレーの法案となり、デイングレーの法案となり、幾ら大統領が交迭しても容易に此政策は改めない、單に幼稚時代のみならず、米國が世界第二の鐵生産國となつても其通り、又千八百九十年第一の生産國となつた以來の場合でも此關稅政策は改めて居らぬ、それで今回の戦争の結果、獨逸は其生産額たるや英吉利の下になつてしまつた、即ち英吉利は第二位に進んだと云ひながら今日の生産額は八百萬噸ぐらゐに下がつて仕舞つた、即ち亞米利加は第二位の英吉利の生産額に比してさへも殆んど五倍の製造力を有つて居るに拘らず其保護政策は依然として改めぬ様な次第である然るに日本製の鐵事業は尙ほ幼稚であり、四圍の壓迫を加へられて居りながら且つ國家では實に重要な工業であると言ひながら何等保護を加へない、日本の輸入關稅は保護政策の色彩を帯びないと云ふとは誠に萎げた政策である、保護と云ふ上に於ては種々方法があるが、最も適切で最も有力なるものは關稅保護政策である、斯う云ふ場合には斷然たる處置

を執らなければならぬと云ふのが保護論者の説でございます。それから更に此當業者自身も亦方法を考へて自衛の策を講じなければならぬと申すことで、斯う云ふ論者の主張する所の要點は總て今後は資本の分立を避けて大資本合同に依るが最も得策である、廉價製造も之に依つて起り多數製造も之に依つて起るのである、米國には先程言つた通り單に天恵の大なるものがあるのみならず人爲の努力の實に敬服に堪へないものがある、其人爲の努力の最も敬服すべきものは彼の千八百一年にフェデラルスチールコンパニー社長のゲーリー氏が發案したる米國スチールトラストである、從來のカーネギーの個人主義の遣り方だけでは亞米利加の製鐵事業が充分に發達がてきない、ゲーリーの世界的の考で出來た所のトラストの爲めに始めて亞米利加の製鐵事業が一層速かに發達を來し自國の需要を満した上に更に世界市場に活躍し得るまでに振興したのである、抑々製鐵事業は總ての工業の中に於て最も多くの資本を要するものである、又此業務は多岐に分れて複雑したものである、例へば最小限度の小規模なる製鐵所と雖も之に要する所の各種の原料と云ふものは他の工業に比べて非常な多種多様に亘つて居る、それを加工し運搬し販路に出すまでに於ては或は鐵山事業と云ひ或は運搬事業と云ひ、冶金技術機械技術に電氣技術に、總ての方面に亘つて最も複雑なる最も困難なる仕事を澤山有つて居るのである、さうしてそれ等に

従事する従業員を養成し或は之を收容すると云ふ上に於ても亦多大の資本と年月を要するのである、斯う云ふものに對して之を今日の如く個々單獨の小資本の分立に委ねて置くならば凡ての姑息の方法に甘んじなければならぬ、原料の購買の仕方と云ひ或は製品の販賣の仕方と云ひ、それ等の事も極小仕掛けの商店的のものになつて、獨逸人の所謂クライメルゲシェーフトに終つて仕舞ふのである、且又近頃問題になつて居る勞働問題の解決に付ても我製鐵事業には何等統一的權威が無く、徒らに従業者の言ふが儘に委せて置く様では將來の困難は容易なものでない、どうしてもゲーリーが會て亞米利加のスチールトラストを拵へたやうな意味に於て我々も亦此日本の製鐵事業の大資本合同を作らなければならぬ、彼は之を以て世界に雄飛せんとする方法に使つたのであるが、我は之を以て貧弱なる日本の製鐵事業を自衛するの策に用ゐなければならぬ、其規模は違ふけれども其精神は同じことである、さう云ふ點から大資本合同と云ふことは日本の製鐵事業の自衛上最も必要であると云ふ議論でございます。其他或は燃料經濟と云ひ、或は保護の末葉に涉りまして種々の策もあるやうでございますが、大體此二つの案が今日の識者間を支配して居るやうでございます。それで過去の一年間に於ては何等纏まつた事がございませぬが、願はくは諸君も御盡力になりまして、次の一年間に於きましては何等か此目的に向つて發展を期

したいと考へる次第でございます。

○新任會長の挨拶

香村 小 録君

私は多年製鐵事業に従事して居りますが、其關係する所の範圍は誠に狭い一局部に止まつて居りまして、此事業の全般に亘つては交渉が少いのでございます、此鐵鋼協會を組成して居る所の各團體及び個人の方々に對しまして平素とも餘り關係の少い方でございまして、且つ自分のやうな淺學不才の者は會長と云ふ器では素よりないのでございす、會長などと云ふ資格に全然缺けて居りますのでございす、今回圖らずも會長の任務に膺るやうなことになる、自分では誠に當惑いたして居ります、併し先輩並に知己諸君が先づ出来るだけの事をやつたら宜からうと云ふ御忠告もございましたので、兎も角も一旦は御引受を致しましたやうな譯でございす、就きましては今後本會の維持發展に關しまして諸君に於かせられましては何事も遠慮なく御意見を御提出下されまして御懇篤なる御援助に預からむことを偏に御願ひ致します次第でございます、チヨット御挨拶を申し上げます。(一同拍手)

○懇親會卓上演説

野呂景義君 諸君、今日の役員改選の結果、今泉君の代りに香村君が會長になりました、今泉君が會長になられる時、非常に辭退せられて何分にも自分は忙しいからどう

か御免を蒙りたいと云ふのを私が無理に御依頼いたしました、會長になつて戴いて、其代りに私も出来るだけ助けると云ふ約束であつた、所が今泉君はなか／＼勉強で、實に私等が出てそれを助けると云ふ餘地が無いほど此會の爲に盡され、殊に寄附金を募られて此會の發達を非常に圖られたと云ふ點に付ては私は自分一己でなくして諸君も必ず御同感であらうと思ひまして、會員諸君を代表して今泉君に御禮を申す次第であります、次いで香村君にも新しい會長の事に付て交渉いたした所が、是も矢張り忙しい身分で且つ種々の理由があつて固く辭退せられたのでありますが、私が懇願して、漸く御當人も之を承諾せられたので、此點に付ては深く感謝の意を表する次第であります、尙ほ私は香村君に望むらくは御忙しいではあらうけれども、どうしても眞棒になつて働く人が無くては會の十分の發達は出来ぬのでありますから、香村君も一旦會長たることを承諾せられた以上は十分に御盡力あらむことを會員に代つて偏に御願ひする次第であります、長いことは申しませぬ、茲に兩君のため健康を祝さうと思ひます。(一同乾杯)

今泉嘉一郎君 唯今、野呂前々會長より御話がございまして、御稱讃を戴きました次第でございますが、實に歲月勿々箭の如く、何かしやうと考へて居ります間に早や既に二年の任期を經過いたしました、今日に至りまして誠に汗顔の次第でございます、當初は種々計畫もし皆さんの御助

力に依つて致したいと思つた事も澤山あつたのでございませうけれども、つまらぬ實業にも關係いたして居るのと、又此一兩年は先程申上げたやうな種々の變動が日本の製鐵事業界に生じた爲に其方に従事して居りまして、誠に會の事務は不勉強だらけて、唯今野呂前々會長の仰に依りまして誠に汗顔の次第でございます、併し自分は會長である又不いに關らず、是非とも皆さんの驥尾に附いて何なりとも犬馬の勞を執りたいと云ふ考は何時でも變ることはないのでございますから、何か私共で役に立つとでございますしたならば何なりとも御命令を受けて致すべきことと考へます、香村君は私よりも一層勉強に且つ一層思慮の深い方でありますから、必ずや前期より一層の光輝を發揮せらるることと私は考へて居る次第でございます、聊か御挨拶を申します。(拍手)

それでは五分演説をすることに致しますから、どうか諸君何なりと御述べを願ひます、さうして次の方を指名して戴きたうございます。

香村小録君 私には先程御挨拶申上げました通りでございます、是まで關係して居る所の範圍は局部に止まつて居りまして一般に對しては沒交渉と云ふやうな状態にありますのでございます、且つ誠に淺學不才でありまして、この會長などの任に膺することは出来ないのでございますが、先輩並に知己諸君の出来るだけの事をやつたら宜からうと

云ふ御忠告に基きまして、兎も角も御引受を致したやうな次第でございますから、今後はどうか何事に依らず御腹藏なく本會の維持發展に付ては御意見を御提出下さいまして偏に深厚なる御助勢あらむことを懇願する次第でございます。

何か今五分間演説とか云ふやうなことで、私のやうな訥辯で五分間では何も申上げることが出来ないのでございますが、唯チョット感じました事は今晚は大塚さんも御出席になつて居りますから大に勞働問題などに付て御話があるのとだらうと存じますが、今日世界を風靡せむとして居る所のデモクラシーの思想なる者が始んど極端にまで行かなければ己まないと云ふやうな情勢でありますので、此デモクラシーの思想の起つた所の歐米各國に於て其政府の人々は今日如何に之を抑制せむとするか、如何に之を鎮壓せむとするかに付て非常に苦心慘澹たることであるやうに思ひますが、私の考へます所では我が日本は此極端なるデモクラシーの思想に對抗すると云ふことに於ては最も有力なる堅實の素養がある國だと思ひます、それは我が國體歴史及び道德の素養と云ふものが大に歐米と趣を異にして居る所からして彼の極端に走らうと云ふ思想に對抗する所の實力は遙に彼れに優つて居るものだと自分は信じて居ります、然るに近來の情況は動もすれば彼れよりも一層先き走つて、事に依ると突飛になると云ふやうな情況もありますので、

謂はゆる彼の正直息子が急變して惡黨者になるやうなことが往々世の中にありますものでございますから、或はそんな事にならぬとも限らないので、大に今度御互に此事に付ては配慮して居なければならぬ重大なる問題だらうと思ひます、此極端なる思想に對抗して之を鎮壓して行くことが出来る出来ないは今後世界各國の盛衰の分る所の途だと思ひますから、唯今申上げました古來の國體歴史等の素養で以て此極端なる思想に對抗して行く實力が大にありとすれば今日の歐米各國に大に優つた事業が出来る最も適當なる時節であると考へます、併し一步を誤ると飛んでもない事になつて來ると云ふやうな次第でありますから、大に此點に付ては我々エンジニアと雖も留意しなければならぬ點だと思ひます、それで此事に付きましては亞米利加でも英吉利でも餘ほど困つて居るやうで、此戦争後鐵及び鋼の復舊の工事に向つて需要が多いから盛に拵へなければならぬ時機に當つて居りながら此極端なる思想の爲に著しく生産力を減じ工費を高めて居つて、現に戦時中は勿論のこと戦争前よりは却て鐵及び鋼の生産力が減つて居るやうな、英吉利や亞米利加に取つては甚だ不面目な情況を呈して居る場合でありますから、我國に於て此問題さへ穩當の解決を與へたならば、彼等に卓越した地歩を占め得ることは最も確なることだと思ひますので、茲に勞働者と云はず、資本家と云はず、國民の一致協力を以て此問題に對して最も

適當の調和を保つて行くやうに各々努めなければならぬことだと大に感ずる所があつて、チヨット五分より長くなつて甚だ恐縮でございますが、一言所感を申述べた次第でございます。それでは次は大塚さんに願ひます。(拍手)

大塚榮吉君 唯今會長から御指名を受けましてございますから私は此機會に於て皆さんにチヨット御諒解を願つて置きたいと思ひます、實は今回の衆議院解散に付て私が議員候補に立つやうなことになりますので、或は皆さんの中から大塚は氣が違つたのではないかと斯う云ふやうな御考を受けるかも知れぬと思つて居りますが、私は固より政治家の看板を掛けて居りませず、又法學も修めた者でなく何等學識は無いのであります、併し御承知の如く昨今は勞働問題が非常に險惡になつて來まして我々工業家として殆ど安心して仕事をして行けぬ、前途どうなるかと云ふことに付ては我々の同業者が非常に心配いたして居るのでございます、時、偶々斯う云ふことになりましたに付て同業組合評議員會に於てどうしても此際勞働の實際を知つて居る者が出て、何とか此三百何十人の議員に其實際を吹込んで救済策を考へて貰はなければいけない、詰り今日論議される所の或學者、或政治家などは工場の飯を一日御食べになつたことも一ト月工場に従事なされたこともない、唯外國の書物に依つて斯うあるべきである、理論は斯う云ふことになると思ふやうなことで、其結果は唯今香村さんの御話

の如く日本の工業界に害毒を流すと言ふことは實は御考へにならぬので、どうしても是は工業の實際を知つて居る者でなければいかぬと云ふことの立場から私に白羽の箭が立つて、詰り私は過去に十五年ばかり工業生活をして居つて謂はゆる労働者側に居りまして、最近の二十年は些小なる工場を經營して幾分か傭者の側の經驗も有つて居ります、其點から私に立てと云ふことで、さう云ふ御希望ならば同業者の爲に御請を致しませうと云ふことから立つことになりましたので、どうか此事は皆さんも大塚が氣が違つたのでないと云ふことに御諒解を願つて置きたいと思ひます、由來此工業と云はず商業と云はず、商工業者が唯今まで政治は政治家のやるものである、我々實業家が喙を容れるものでないと云ふ考から出て御いでの方が大變少かつた、さうして我々が彼の戰時利得税の問題などの時も戰時利得税のことに付て規則の上に非常に困る所があると云つて各代議士を訪問して意見を述べたこともある、又營業税の如き非常な惡税なりとして代議士を訪問して種々陳べ、又は陳狀書などを澤山拵へて持つて行つたともありますが、一向議席に於ける議決權を一票も有つて居らぬ爲に殆ど向河岸同様に認められて仕舞つて、今日其苦痛も免れることが出来ないのでございます、どうしても其立場から出よと云ふことで今日府下の商業家の團體からも推されますやうなことになるましたので、甚だ私の政見發表を致すやうで相濟

みませぬけれども、さう云ふ立場から私が立つたと云ふことを御諒解を願つて、尙ほ特に會長今泉博士は固よりのこと他の御方々に於ても私の誠意を諒とせられて御知己の方其他にも御話を願つて私に御賛成下さるやうに御勧誘を御願ひ致したいと思ひます、どうぞ宜しく願ひます。次は吉川さんに願ひます。(拍手)

吉川雄輔君 私に御指名を受けて何とか言はなければならぬやうになつて甚だ……唯今私も役人を罷めまして民間の會社に入りまして別に感想はございませぬが、早く言ふと室咲きの梅が北極に來たやうに急に難儀な會社に入りまして種々の新經驗を澤山いたしましたけれども、マア五分の制限時間の間に辛い面白い經驗を申上げることが出來ませぬので、極簡單に何か、唯今労働問題の事を香村さん、大塚さんより御聽き申しましたから此頃世間の問題になつて居ります此點に付きまして唯自分の經驗いたしましたことと感想だけを申し上げます、私の唯今入つて居ります富士製鋼會社は非常な悲況の爲にストライキの心配は無い、向ふの方でやれば却てこちらは御免を蒙つた方が宜いと云ふ決心であります、向ふからもさう云ふことはない、皆さん方でさう云ふ御經驗のあるのは非常に御景氣が好いからあります譯でございませう、結局資本主の景氣が好いと云ふことが此問題を惹起した原因の一番主たるものだらうと思ひます、私は労働問題よりも、もう一つ餘り人が申

ませぬけれども、中等労働者或は精神労働者と云はうか、中流階級の事の心配が一番大きくはないかと考へて居ります、それは私が曾て聞きました中に砲兵工廠とか製鐵所等に於きましても賄辨當と云ふものがあります、是は一番上に立ちます人と中邊にあつて労働者を指揮監督する者と、それから労働者と此三つの辨當を供給人が請負で供給して居りますが、其辨當が、唯今は食事の席でありまして辨當話は少し御食べ過ぎになるかも知れませぬけれども、どう云ふ辨當を此三種類の中で良くした請負人が永續するかと云ふに、實驗に依りますと、一番上の辨當を良くしても此請負人は永く續かぬ、それはどういふ譯かと云ふと、一番上等のお辭當を上げる人は唯美味く食べて居るが、中等及び下等の辨當を食べる人から不平が出て、此の辨當屋はいけませんからと言ふと、上等の人は良いと思つても、それでは變へたら宜からうと云ふことで此辨當の請負人は直き交替する、又下等の辨當ばかり良くして置いても中等の辨當が良くないと、中邊の人からどうも賄などと云ふものは時々變へないと悪い物を持つて来る、時々變へる方が宜いと云つて中等の方から苦情が出て此賄の請負も解除になる、中邊の辨當を良くして置けば上等の辨當及び下等の辨當は少しくらゐ悪くても永く續くことになる、なぜかと云ふと上等の方から此頃は辨當が悪いなと云ふと、中邊の人が、左様でございますが賄を幾度變へても人間は同じと

とてございませうと言ひ、下等の方から此頃は辨當が悪と云ふと、ナニ君等はさう言ふけれど變へたつて面倒なだけで矢張り同じことだと言つて、中邊の人が上に立つ人へも下に立つ人へも兩方の中間に立つて其苦情を調和してくれるそれで中等の辨當が一番悪いと上等の辨當が良くても下等の辨當が良くても、上等の所に行つて時々賄を變へませう、下等の所へも、さう君等は言ふが時々變へなければいかぬといふことで、何時も下等辨當が良くても上等辨當が良くても中等辨當が悪いと、斯うなると云ふことの實驗と、又さう云ふ事が他の方にありました事實も聞いて居ります、日本の現状はどうかと云ふと大學の學者の方は進んだか後れたか知りませぬが、最も進んだと云ふか覺醒したと云ふが、非常に新學說の主義を鼓吹する、併し下等の労働者の方には未だ此理解はない。上等辨當下等辨當ではないが、大學の先生及び民間の最も學識ある人に極端なる説を唱へる人がある、併し労働者の方には理解が無い、是等は今の中等辨當で申した通り中産階級が此間のパツファアになつて今は差抑へて居りますが、此辨當が悪くなつては將來極端な學說思想に自覺しなかつた労働者が共鳴してどう云ふことになるか分らぬので、此中等辨當を維持して行く、此中等辨當を良くして置くことは非常に必要ではないかと思ひます、將來一番の心配は中邊の社會を失ふと好いパツファアが無くなるのであります、現今の情況では

中等辨當は滋養が足らぬやうで、遂に衰弱するやうになるかも知れませんが、どうか中等辨當にもう少し良いものをやつて兩方のバッファアールにならせることを希望いたします、餘り長くなりますから此邊で止めます。次は廣田さんに願ひます。(拍手)

廣田理太郎君 是は困りました、五分と云ふのはえらい長いと思つたら直きにチリン／＼になるからウツカリ喋れない、短いとて速く切上げたいと思ひます、今、大塚未來の代議士より斯う云ふ事で出られるとか云ふ御話でありました、チョットそれが私に聴取れなかつたが、是は大塚未來の代議士が已むを得ず御出になるやうにも聴えましたけれども、或は大に希望を以て自ら御乗出しになつたのではないか、何は兎もあれ我が工業界から大塚君が出られることは誠に希望する所で、どうか労働問題のみならず、我々日々のパンの問題に付ても廉く暮せるやうに御盡力を願ひたいと思ひます、殊に大塚君の是までの御經歷は私も少しばかり承つて居りますが、種々な御經驗があると云ふことでありましたからして、どうか是非議員として御出になることを希望すると同時に御出になつたならば是非とも工業の振興の爲に御盡力なされたいと思ひます。私は序ながらと申しては甚だ何んですが、残りの時間を利用して諸君に御依頼いたしたいと思ひますのは、明治工業史と云ふものの編纂が始まつて居ります、大正の事には關係しませぬが明

治の事に關係して居ります、圖らずも此間其方の世話をや
く委員の一人に選ばれて、甚だ古い事でありますが、まだ私は若い積りでありますから當惑いたしました、こちらの製鐵の方に關しては野呂さん、俵さんがやつて居られますが、私は機械の方に關係して居るのであります、諸君の中でどうか其點に付て古い御記憶を想出され、又明治年間の發達に付て御存じの方があれば一つ御話を願ひたいと思つて居ります、改めて伺ひに出ますからどうか何分宜しく御願ひ致します、もうチリンになりさうですからソロ／＼止めまして、次は桂さんに願ひます。(拍手)

桂辨三君 圖らずも矢が立ちまして一向何も考がありません、此頃の電車のやうに混んで居つては足を踏まれ着物を汚す、全く人間を動物のやうにして居ると云ふ人があると思へば、先刻も電車は馬鹿に廉い新宿から品川まで五錢往復十錢で、こんな廉いものは無い、是で以てグ／＼不平を言ふ者は腰弱だ、釣革で首を縊つて死ぬが宜い、豆腐に頭を打つて死ぬが宜いと云ふ話を聴て來ましたが、物は聴いて見るとそれ／＼御尤もなことでございます、殊に私くらゐの年代になると稍々老年に近い爲か知れませぬが、何でも皆御尤もと言ふことになつて決斷が無くなつて仕舞ふ、相撲の四本柱のやうにこちらに聞くと御尤も、こちらに聞くと御尤もと言ふことで、サツパリ分らない、そ

れて労働問題が盛に何處でも問題になつて居りますが、我々はどつちかと云ふと現に我々の立場の方の考で労働者に對すると云ふ感じが悪いやうに思ふ、それで自分で労働者になつたと云ふことから考へると亦労働者の言ふことが唯賃錢を上げて呉れと云ふことは尤もと私は思ひませぬが併し労働者に同情しなければならぬやうな點がある、それで極感情の細かい所で、其感情の違で種々違が起つて來ますが、私の友人で斯う云ふことを言つた人があつた、華族さんが土地を持つて居つて其地代を大に上げたが、それは五錢から十錢に上げたか十錢から十五錢に上げたか知りませぬが、其地代を上げたたら其華族さんに對して、さんといはない、例へば桂なら桂と言つて、地代が廉いと桂さんと言ふ、そこらは極面白い微妙なことと思ひます、私が商賣人なら實は物を高く賣らうと思つて居る、と云ふのは私の家に八百屋が来る、種々の物を買ふ、貧乏ですけれども、詰り月給生活ですから、其金がありさへすれば廉賣へ行つて盛に買つて来る、所がそれが月末でなければ無いと云ふやうな關係から通帳にする、第一下女が居ないと下女を買ひに出すことが出来ない、だから仕方がないけれども、高いと云ふことを知りつゝ買つて居ります、併しそれを見てもつと高くしても宜いと考へる、それは私の衷情の感じの所を打明けて御話するのでございます、なぜかと云ふと「今日御用は」と云つて參ります、下女が居ると「此間の大根は

鬆があつて食へない」とか「美味くない」とかやつ付ける、下女のやうな者から堂々たる男子がポーンとやられて「ヘイ」と恐縮して行く、是だけに下女から侮辱されると云ふことの果てはどこに行くかと云ふと其主人公に來るから矢張り物は高くすることになる、五錢の物は十錢、十錢の物は十五錢にすると云ふやうな考が起る、労働者と資本家との間に於ても總ての仕事は神聖だと云つても労働者に對して貴様と云つて居る人がある、階級がマルデ違つて居る。そこ等は何年経つたら善い工合になるかは問題であります、その根本の解決が出來て居ない、詰り官吏は威張るから給料が少い、それは當り前、威張ればそれだけ少い、大學教授とか言はれて居る人も給料が少い、そこが幾らかイクイリブリアムになるものと考へて居りますが、まだ――此労働問題社會問題と云ふものはなか――前途遼遠だらうと考へます、又役所で此頃門衛が威張り散して、今日はまだ五時過ぎた面會はダメだと云ふやうなことを我々はやられる、それでは誠意も無ければ何も無いことと考へます、甚だ横路にそれ、つまらないことを申上げて失禮でございますが。次は種子田さんに願ひます。(拍手)

種子田右八郎君 私が立ちましたのは私は武骨の軍人でありますから願ひすることの外はない、御願ひするとは近頃内外から海軍擴張を御認めになつて今の八八艦隊などとは無論通過すると安心して居りますが、さて通過されると

どうして宜いか、我々此技術者の方から云ふと日本の今の製造力では甚だ心細い、第一、今日造船用材料が内地で出来るのでは足りませぬ、其外の物は足りるか云ふと是も覺束ない、それで八八艦隊を完成するには日本の製鐵、製鋼其他の製造力に不足を感じて居る、故に約束はしても其通りに行へるかどうかと云ふことは非常に心配であります、是は海軍だけでやる仕事でなく日本國一般でやる仕事でありますから、ここでもうか速く多量の品物を出し尙ほそれを出来るだけ廉く御願ひしたい、是が一つの御願であります。もう一つは労働問題と云ふことが頻に出ました、マア労働問題を解決するには種々方法がありませう是はそれ／＼御研究のことと考へますから、私がここで彼れ此れ申す筋ではないのでありますが、之を解決するには職工の上に居て彼等を指導する知識階級、知識階級の卵即専門學校以上の生徒學生竝にそれを出た所の知識階級、此人達が今の通りの態度を以て行かれてそれで宜いものであるかどうか、私は此労働問題の解決は單に利益だけで解決は出来ぬことで、一方には矢張り精神的に行かなければならぬと考へます、精神的にそれを望むには今までの態度で宜いかどうかと云ふことも御研究を願ひたい、此二點であります、甚だつまらぬことでございます。次は御隣りへ願ひます。

(拍手)

佐藤秀松君 御指名を載しましたから餘儀ないことと思

日本鐵鋼協會記事

ひましてチョット二三私の希望を申述べたいと考へます、先刻野呂博士から此會長の交迭と云ふ事に付きまして、先生が申されますに、大に手傳はうと思つたが手傳ふ餘地も無くて誠に安心、俗に申しますると自分は仕合せてした、斯う云う御意見を承りました、此事に付て一つの希望は私が製鐵と云ふことを始めて耳に致したのは野呂先生の御口より伺ひましたので、極めて古いことでありますが、月島に鑄鐵會社がありました時代に於て既に野呂先生の知遇を得て居りました、それから引續いて千住製鐵所とか鐵に因んだ方面に關係して居りました、或時は野呂先生と山の中に入りましてビールの決闘を願ひ、夜中、瀧に頭を打たして居つたやうなこともございました、其時代に於て製鐵の奨励と云ふことに付て野呂先生の言はれることは、私共の考では、何と申しませうか、人間には少し分り難いやうなことで伺ひまして、或は天の一角にさう云ふ聲が聞えるやうに感じて居りました、然るに其聲が圖らずも今日は日本の製鐵、謂はゆる世界の製鐵事業と云ふことになつて來て居ります、さう云ふ歴史のある野呂先生が動ともすると樂隱居をするやうな御話がありましたのは甚だ物足らぬ、先生に依つて製鐵事業が起り、又當協會の起りましたのも先生に依つて起つたのではないかと考へます、それで會長は幾代迭はられましても、此製鐵事業の發展と云ふ事と協會の發展と云ふ事はどうしても先生の責任であら

うてはないかと考へますから、之を以て會長の變遷に關らず充分に御盡力を戴くことを一つの希望として申上げて置きますのと、もう一つは前會長今泉博士が此製鐵業のため製鐵業保護と云ふ問題に付て大變御熱心に御配慮下さることは深く感謝して居る次第でございますが、是も私の甚だ不満に考へますのは此日本鐵鋼協會が此問題に甚しく不熱心ではないかと云ふことを私共不満に考へるのでありますからどうか、是は會長が交迭をなされましても、新會長に於かれて此問題に付て十分御盡力を戴くと共に、前會長も撓まれることなく此問題に付て御盡力を戴きたい、それに付て考へますのに、私は鐵道事業に關係して居りまして鐵道協會或は其當業者が寄集ります際に鐵道院に對して鐵道會社が各種の保護問題を持出しますのでありますが、其保護問題たるや、實に聞くだに耻しい事を鐵道院の局長邊に持つて行つて、さうして物笑ひになつて引下がるやうな不見識な保護問題を提げないで、どうか相當の、單に製鐵業者のみならず、どんな方面から考へても必要だと云ふ一つ練つた問題にして、國家と云ふ立場から、先刻も工業界の石炭は人間の米と同じだと云ふ御話がありました、國家の存立と云ふことに付ては此製鐵業は最も必要な事でありますから、それ等の理由をどうか一つ主張になつて、世間に耳を傾けて貰へる問題にして此希望を貫徹して戴きたいと思ひます。

第三には先刻大塚未來の代議士が勞働問題に對して大に御希望を以て代議士の候補に立たれたと云ふことは非常に私共同君の將來に望を屬すること、マア今は大塚さん自ら會費を御持ちになつたのでありますから選舉違犯にはなりませぬが、私も芝區民として大塚さんの爲に大に働きたいと思つて居ります。是は私の一二の希望を此機會に申述べた次第でございます、どうぞ十分御盡力を仰ぎたいと考へます。(拍手)

座長(今泉嘉一郎君) それではまだ澤山御願ひしたい方がありますが、大分時間も経過いたしましたので皆さんの中には御都合の悪い方もありませうから五分演説は是で止めます。

◎理事會

大正九年三月二十五日(木曜日)午後五時より本會事務所に於て理事會を開く會議事項左の如し。

一、入退會者に關する件

一、印刷費値上の件

一、定款改正認可願の件

一、其他會務に關する件

當日出席者は左の諸氏なり。

香村小録君、野呂景義君、今泉嘉一郎君

倭國一君、鹽田泰介君、

◎編輯會

大正九年三月二十五日午後五時より本會事務所に於て編輯會を開き會誌第六年第四號の原稿を選定せり當日出席者は左の諸氏なり。

井上克己君 室井嘉治馬君 櫻井爭三君 堀 尙靖君

◎明治工業史編輯委員會

大正九年三月二十五日午後四時より本會事務所に於て明治工業史編輯委員會を開き種々の打合せをなせり、出席者は左の諸氏なり。

野呂景義君 井上克己君 室井嘉治馬君 淺尾芳之助君

日本鐵鋼協會記事

◎入退會者

前號報告後入退會を承諾せられたる會員左の如し。

退會者 (住所及職業)

北海道後志製鐵會社員	正員	井 關 鹿 彦
南滿洲本溪湖煤鐵公司員	同	高 橋 利 吉
東京市芝區三田四國町一五、製鐵業	同	大 久 保 藤 吾
東京市芝區白金猿町六一	同	塚 山 惣 次 郎
福岡縣戸畑町明治專門學校學生	准員	高 山 實
朝鮮平安道鎮南浦中村組社員	同	河 添 安 五 郎
兵庫縣武庫郡西宮町今在家、住友鑄鋼所員	同	山 田 長 太 郎

入會者 (住所及職業)

石川縣能美郡苗代村小松電氣製鋼所支配人	正員	岩 井 興 助
東京市日本橋區阪本町湯淺貿易會社員	同	加 納 美 哉 城
兵庫縣武庫郡六甲村神戸製鋼所員	同	石 井 茂 吉
岩手縣釜石町田中鐵山鑛業所	同	横 山 虎 雄
同 前	同	牟 田 巽
東京市日本橋區駿河町一丁目	同	三井物產會社金物部
大阪市外今宮町七一〇、鑄造業	同	野 村 格 藏
大阪府西成郡神津村今里木本鐵工所員	准員	宮 本 繁 志
岩手縣盛岡市盛岡電氣工業株式會社員	同	内 堀 賴 人
岩手縣上閉伊郡宮守電陽社技師	同	本 間 駒 吉
大阪市西區石田町二〇一、大阪汽車製造會社員	同	瀨 尾 喜 代 三
旅順市旅順工科學堂學生	同	筑 後 孝 信
同 前	同	太 田 義 一
大阪市外中津町光立寺末廣鑄造所員	同	松 本 正 哉
愛知縣豐橋市指笠町四五、九州帝大工學部學生	同	藤 田 守 太 郎
南滿洲本溪湖煤鐵公司技手	同	齋 藤 康 一
神戸市脇濱町一丁目神戸製鋼所員	同	峰 一

同 前
兵庫縣武庫郡西灘村河原、神戸製鋼所員
同
南滿洲鞍山製鐵所員
同
東京市赤坂區青山南町二ノ七六、東亞通商會社員
同
水野常次郎
宮崎義三
野村勇次郎
清水藤三郎

福岡縣筑紫郡千代町一ノ二〇
東京市四谷區麹町十三ノ十二
東京府荏原郡大崎町上大崎七六八
神奈川縣浦賀町魚俱樂部

渡邊福雄
橋本源吉
平川敏行
池田藤太郎

◎轉 居

轉居者の新住所左の如し。

◎准員より正員に變更者

前號報告後准員より正員に變更せられたる會員左の如し。

神奈川縣三浦郡駒崎乙七號官舎
長崎市下筑後町八番屋敷
北海道室蘭區一之澤社宅九六號
東京市本郷區駒込神明町三六四
東京市本郷區千駄木町五一
陸軍省兵器局内
東京市日本橋區兜町五
東京市麹町區鐵道院官房研究所
東京市京橋區北紺屋町一二、田中鑛山會社
東京市牛込區南山伏町七
鹿兒島市東千石町九八、大津方
兵庫縣尼ヶ崎市住友仙銅所尼ヶ崎工場
千葉縣千葉鐵道第一聯隊第一中隊
南滿洲安奉線南坎廟屈兒溝鐵山
福岡縣門司市清見鐵道官舎
香川縣三豐郡二ノ宮村
大連市外沙河口工場
大阪府東成郡天王寺村大字阿部野字御坊屋敷二〇二
東京府南葛飾郡大島町七ノ五、日本鑄鋼所
同 前
大連市能登町八區一七號地
大阪市東區生玉町二七
大連市南滿鐵道會社埠頭事務所
神奈川縣鎌倉町長谷向井原二八七

山岡武 福本清藏 高島正之
六角三郎 白石顯二 角逸三
山路孫三郎 糟谷宗吉 睦月會
原俊雄 山本次男 兒井常
本多貞之助 趙伸 德永晋作

谷山榮介
林田忍四郎
蔭田宗次
小田廉平
西尾銈次郎
津田藤左衛門
川北商店
濱田勝次
中大路氏道
武田三郎
白石顯二
片山國孝
內藤謙治郎
角逸三
宮崎操
山路孫三郎
高橋忠之
金子增耀
前田勝治
久富政太郎
金萬計吾
畑中覺造
梅野實
數江雄二